

活動報告

多文化共生研究所ランチセミナー（2018年度第2回）

「大刷新！！劇的ビフォー→アフター in Viet Nam」

愛知県立大学外国語学部 国際関係学科准教授
藤倉 哲郎

ベトナムの経済と社会は、1990年代以来の高度経済成長の下で、劇的に変化している。その変化のポイントを、テレビ朝日系列のテレビ番組「大改造！！劇的ビフォーアフター」をもじって、報告者やその共同研究者が撮影した写真資料をもとに、変化以前と以後を、視覚的に実感しながら、報告者の研究内容を紹介する。

ひとつは北ベトナムの紅河デルタの農村。1994年から日越研究者による農村総合調査が実施されており、調査初期の貴重な写真資料が残っている。写真資料を通じてみとめらる過去20年の変化のポイントは、第一に、農村郊外の水利施設や田畑の景観は、一部の農地が住宅としてつぶされているほか、ほとんど変わっておらず、基本的な農業基盤は、昨今の経済社会変化以前から確立されていることがうかがえる点。第二に、村の市場周辺の市街地では、交通手段（自転車からバイク・自動車の登場）、衣服（変わらない菅笠、他方で原色の派手な衣類、バイク用のヘルメットの登場）、商品（以前からあったプラスチック製品、代理店看板の増加）、家屋（多層階建物の増加）など、視覚的にも大きな変化がみられること。第三に、再び村の郊外にある国道近くの風景に目を転じると、水利施設（水門・堤防）に大きな変化は見られないものの、かつてはみられなかった高層の建物が国道沿いに立ち並ぶようになり、遠望の風景（例：隣村のキリスト教会）がさえぎられるようになっていること。経済の活発化によって、他地域への交通のかなめである国道沿いの発展がうかがえる。

続いて、近年の報告者の調査地である南ベトナムのメコンデルタの農村。ここでは、数年での大きな景観の変化がみられる。まず Google Earth を使って、2010年2月頃までの衛星写真と2018年3月頃までの衛星写真を見比べてみる。前者はそれぞれ稲作地とココヤシと考えられる緑地が広がっているのに対して、後者では、それらの緑地に代わって、グレーの地面に規則正しくならぶ丸いものが多くの耕地でみとめられる。この変化を、報告者が地上で撮影した写真で確かめると、稲作地・ココヤシ栽培地からサボテン科のドラゴンフルーツへの転作によるものであることがわかる。Google Earth で写っていた奇妙なものは、ドラゴンフルーツがからみつくコンクリート支柱が、耕地に整然と並んだものだったのである。この調査村では2010年頃からドラゴンフルーツへの転作が急速に広がった。2014年に報告者が撮影した緑のじゅうたんのように広がる調査村の稲作風景は、たった4年のあいだに、ドラゴンフルーツの支柱が並ぶ景観にすっかり変わってしまったのである。こうした景観変化の背後には、調査村の比較的恵まれた耕地条件の一方で、多額の初期費用や運転資金、果樹の市場価格の乱高下、労働力の不足など、未知数なリスクが積みまわっている。

このように景観として容易に認められる変化の背後にある、簡単には目に見えない経済や社会の変化を調査研究することが、目下、報告者が関心を持ってしていることである。

